

布哇教育會編纂

日本語讀本

高等科用

卷一

寄贈 芥川昭寿

(柳井市阿月出身)

目録

第一課	日本地理總論	一	第二十七課	製糖の漁業	九十九	第五十三課	待賢門の戦	二四二
第二課	神代の日本人	五	第二十八課	布哇のバイナップル業	一〇三	第五十四課	教育界の偉人	二四七
第三課	家：神武天皇の創業	十	第二十九課	とカフアイ栽培	一〇六	第五十五課	簿記	二五三
第四課	今日：駱駝乘	一五	第三十課	孝行	一〇九	第五十六課	日布貿易	二五八
第五課	神武天皇の創業	二〇	第三十一課	鹽原多助	一一二	第五十七課	鎌倉幕府	二六三
第六課	駱駝乘	二五	第三十二課	大化の改新と律令の制	一一四	第五十八課	鎌倉時代の文物	二六八
第七課	今日	三〇	第三十三課	大化の改新と律令の制	一一九	第五十九課	異人種に對する心得	二七三
第八課	日本武尊	三五	第三十四課	漢土雜話	一二七	第六十課	類似せる東西の諺	二七八
第九課	關東地方(一)	四〇	第三十五課	漢土雜話	一三二	第六十一課	近畿地方(一)	二八三
第十課	關東地方(二)	四五	第三十六課	進取	一三七	第六十二課	近畿地方(二)	二八八
第十一課	布哇より	五〇	第三十七課	護國の眼と腕	一四二	第六十三課	具原益軒	二九三
第十二課	海島の高山	五五	第三十八課	シザト	一四七	第六十四課	二百三高地の占領	二九八
第十三課	布哇の高山	六〇	第三十九課	奈良時代	一五二	第六十五課	建武の中興	三〇三
第十四課	中濱萬次郎	六五	第四十課	奥羽地方(一)	一五七	第六十六課	吉野の朝廷	三〇八
第十五課	朝鮮の服屬と學問工	七〇	第四十一課	奥羽地方(二)	一六二	第六十七課	中國地方	三一三
第十六課	佛敎の傳來と工藝美術の進歩	七五	第四十二課	親類	一六七	第六十八課	佐久間大尉	三一八
第十七課	ヒマラヤ山とガンヂス	八〇	第四十三課	母の愛	一二二	第六十九課	水雷と潜航艇	三二三
第十八課	象狩	八五	第四十四課	不安時代の文化	一二七	第七十課	ビーター大帝	三二八
第十九課	熱帯地方の果樹	九〇	第四十五課	盗人をいましむ	一三二	第七十一課	軍馬の忠義	三三三
第二十課	亡國の民	九五	第四十六課	朋友の道	一三七	第七十二課	萬里の長城	三三八
第二十一課	英國國民	一〇〇	第四十七課	眞の知己	一四二	第七十三課	印刷術の發達	三四三
第二十二課	ネルソン提督	一〇五	第四十八課	中部地方(一)	一四七	第七十四課	きちようめんなカン	三四八
第二十三課	舟路	一一〇	第四十九課	中部地方(二)	一五二	第七十五課	ト	三五三
第二十四課	獸類の移住	一一五	第五十課	布哇へ	一五七	第七十六課	西半球(一)	三五八
第二十五課	勇氣	一二〇	第五十一課	源平二氏の盛衰	一六二	第七十七課	西半球(二)	三六三
第二十六課	征衣上途	一二五	第五十二課			第七十八課	西半球(三)	三六八

日本語讀本 高等科用 卷一

第一課 日本地理總論

大日本帝國は亞細亞洲の東部に位し、東北より西南に連れる日本列島と大陸の東岸に突出せる朝鮮半島とより成る。列島の中にて大なるものは本州・四國・九州・臺灣・北海道本島の五島と樺太(南部)とにして、小なるものには千島列島及び琉球列島を成せる島々などあり。千島の東北端より臺灣の南端まで、長さおよそ二千九百哩(一千二百里)にして、全國の面積はおよそ二十五萬六千方哩(四萬三千方里)あり。

第一の富源にして、各國へ輸出し、日本へ輸出せらるゝもの亦少からず。首府をサンチヤゴといふ。西北なるバルパライソは太平洋岸の良港にして、横斷鐵道の西端に當れり。

ボリビヤは伯刺西爾の西方内地に位し、秘露・エクアドルPeru Ecuadorの二國は相並びて大西洋に臨む。秘露の首府をリマLimmaといひ、エクアドルの首府をキトーQuitoといふ。キトーは赤道附近に在れども、九千餘尺の高地に位せるを以て、氣候温和なり。

日本語讀本 高等科用卷一終

高一

1979.211.217

大正十年五月廿五日印刷  
大正十年五月廿八日發行

高等科用卷一  
定價金

編纂者 布哇教育會

發行者 伏見宮記念獎學會

高等讀本 卷一 九十五仙  
卷二 九十五仙  
卷三 九十五仙  
卷四 九十五仙

布哇教育會編纂教科書  
大正十年改正定價表

尋常讀本 卷一 五十仙  
卷二 五十仙  
卷三 五十仙  
同卷四、五、六、各 八十仙

代表者 内田重吉

東京市下谷區二長町一番地

井上源之丞

東京市本所區番場町四番地

印刷所 出版印刷株式會社本所分工場